

令和元年度 第2回総合教育会議 会議録概要

1 開催日時 令和2年1月21日（火） 15:00～16:10

2 場 所 飯山市役所 3階 31号会議室

3 出席者 飯山市長 足立正則
教育長 長瀬 哲
同職務代理 吉越邦榮
委員 西條三香
委員 小林輝紀
委員 松木英文

4 出席した事務局職員

教育部長兼文化振興部長	常田新司
子ども育成課長	岩崎 敏
課長補佐兼学校教育係長	大口 なおみ

5 会議の経過及び発言

1 開 会

子ども育成課長)

お疲れ様です。ただいまから、令和元年度第2回目となりますが、総合教育会議を始めさせていただきます。はじめに足立市長よりごあいさつをお願いします。

2 あいさつ

市長)

元年度の第2回目の総合教育会議という事でございますが、お疲れ様でございます。

今日は学校・保育園の適正規模等検討委員会の答申、もうひとつは高校の将来像を考える協議会、これにつきましては県の方へ、既に意見・提案書を提出したわけですが、この二点を議題としてまた意見を賜りたいと思います。それぞれ重要なテーマでございますので、またご意見を出して頂けたらと思います。

長瀬教育長)

みなさん改めてこんにちは。

今、市長からの挨拶にもありましたけど、二つの大きな懸案の方向性がある程度出ました。いよいよここから具体的な話になって来ますので、みなさんの意見をまとめ上げて、良い方向に繋がりますよう、よろしくお願いします。

3 議 題

1) 飯山市学校・保育園適正規模等検討委員会答申について
事務局から説明

【資料1】

市長)

答申を頂いたわけですが、教育委員さんからご意見を頂きたいと思いますが、委員会の答申ということですので、これをもとに今後教育委員会で具体的な計画、最終的な案を作るということです。答申について何かございますか。

教育長)

まだ今後の具体的な日程を入れていないのは慌てないで、じっくりと検討するという意味です。充分検討しながらで。

市長)

検討しなければならない課題がたくさんあるので、どのように進めていけば良いのかというところから、計画案を作るのにどうするかというのを、まず教育委員会で検討した方が良いと思います。検討委員会の中で資料を作っていると思いますが、将来の児童・生徒数などを具体的に示していくということですね。

常田部長)

そうですね。計画案の中ではそういうものも、入れていくつもりです。

市長)

計画案に向けて、何を検討しなければいけないか、学校の場所を決めるにしても、実際にやるとなると選択肢がいっぱいあるので、どう検討して絞っていくかというのをフローチャートみたいなもので整理する必要がある。

常田部長)

そうですね。一応答申の中で、設置場所など条件が出されている部分がありますので。

市長)

そこを現実的なところに落とし込んでいくのが大変な作業じゃないかと思います。もうひとつは、答申は統合の話が中心だが、空いた校舎はどうするのか。すぐには決まらない話だが、まったく考えていませんというのもどうなのか。もちろん簡単には決まらないが、その辺も含めて考えていかないと。城北校区の4小学校を1校にするという、そのところをどういう課題の整理をしていけばいいのか、丁寧な検討を。

長瀬教育長)

検討委員会の中では具体的に、数字をあげながらかなり詰めてきました。答申書では具体的過ぎない形で、総論的にまとめてありますけど。

市長)

それも含めて、教育委員会でお話して、詰めていくということだね。

常田部長)

計画案に向けては、具体的な部分もお示してやっていきたいと思っています。

長瀬教育長)

答申については、委員のみなさんも大きな意味ではご理解いただいているんですが、率直にご意見をいただきたいと思います。

小林委員)

これは答申に対しての意見というよりは率直に、自分が思う事として申し上げるとすれば、例えば私がいる小学校区は、統合を繰り返して東小学校になっているわけですが、最初からクラスは1クラスしかない。複数学級ではないんですね。30年40年とやっている中で、東小学校の生徒は学力で、スポーツで、学年のリーダーとして、どう活躍して来たかということを見た時に、はたして複数学級は必要なのかという見方はあります。学級については文科省や県の教育委員会を含めての文言とか基準とかがあるわけですが、やはりそれに準じた考え方をすれば、複数学級や人数にこだわるのは大人の論議であって、はたして本当に子どものための統合として考えているのかな、子どもの方を向いてないという意見があるのは事実です。ただ、市財政とかもろもろの事情というのは、もちろん勘案しなくてはいけない部分だと思いますが、率直に子どもの教育と考えた時には、このような意見があるかと、そのように思います。

それから、この答申の2番に適正配置については、やはり通学だとか体力だとか、そういう部分に配慮が必要だと優先項目に挙げているにもかかわらず、14番の通学方法については検討が必要ですよというところで止まっております。しかし、真っ先に子ども達がどうやって通えばいいのか、川を渡って子ども達はどうやって通うのかな、と考えます。あとは児童クラブを含めて遠くなる子ども達のケアをどうすればいいのかなと、この辺の部分で適正配置の部分で重要と踏まえながらも、答申の中身はどうしてもハードの統合に向かっている文言が多い。これらは、私なりにいろいろな学習会みたいなものをやれば、こうした意見が出てくるだろうと思うところです。率直に言うと答申に対する意見というよりは、私が今いるエリアから見ると、そのように見えがちだというように思います。

あと足立市長がおっしゃった通りで、東小学校にこだわって言うと、あの場所は抜群な景観と環境、それから宮中遺跡があったように縄文時代から地理的にも安全で災害が無い場所と考えた時には、それをなぜ生かせないのかというのが、地元で子どもが無い方からも話があります。これは参考までですが、以上です。

市長)

検討委員会では特にどこかの学校などの視察はしたのですか。

長瀬教育長)

昨年度の検討委員会では信濃町の小中一貫校を見たり、飯水の教育委員会では上越市と岐阜県の高山市などに行きました。

市長)

今小林委員さんがおっしゃったように、今後の規模や配置の計画を示すときには、きちっとアピールできる魅力やメリット、それにしっかり検討経過を説明することが大事。飯山市としては経費削減を根拠として考えているわけではなくて、教育の観点から、子どもたちにとってより良い環境をという観点で進めるという事なので、そういう点でも今までよりも良い環境や教育内容をプラス要素にしていくような方向が必要ということ。

長瀬教育長)

検討委員会で私が最もお話したのが、今から数十年前は単級で 30 人位で、段々と減ってくるにつれて、小学校が7校あるうち子ども達にとって、教育環境が良いところと悪いところの差がもの凄く出てきてしまう。飯山市として一定の環境で子ども達の教育をしていかないと、住む場所によってハンデになったり、教育効果が十分に出ないという、そういう事がかなり出てきてしまう。例えば、ある小学校の六年生はひとりで、頑張ってマンツーマンでやってきました。でもひとりで学習には限界もある。それをよく転校しないで頑張ってくれたと思います。だから今の 10 人を割ったような単級の学校が幾つか出てきている中で、このまま放っておくと、飯山小学校みたいにある程度人数がいる学校の子どもは良いが、少ない学校で運動会や音楽会をやったり、いろいろな行事をやることになると、本来ならもっと良い経験、良い体験、もっと高いレベルの教育が受けられたりすることが、出来なくなる可能性はあります。

もっとわかりやすく言えば、今、伸ばせる可能性がある子ども達を、伸ばし切っていない部分が今の環境の中でもあると思います。だからこそ、今の時点で、適正規模等検討委員会で話を詰めていただいたことは、子ども達に違う可能性を、未来を開くようなそういう展望になるんだと、検討委員会では何回もお話しました。

小林委員)

学力テストの成績もスポーツの成績も、決して長瀬教育長が今おっしゃったとおりではないですね。複数学級ならすべていいということにはならない。学力テストは何回繰り返しても、それからスポーツの成績、中学校や高校に上がった時のリーダーをやる人数、大学への進学、決して複数学級がある学校の成績だけが、上がっているわけではないですね。

長瀬教育長)

それは学校の規模もあるけれど、例えば先生方とか指導力の問題とかいろいろなものが含まれているわけです。だからそれを加味して、なおかつ同じ土俵のところで、いろいろな子ども達が頑張るためには、どうしても現状では、飯山の子ども達の為になっていないという認識がずっとあるわけです。その一番良い例が岡山小学校で、あそこまで少人数になるまで引きずって良かったのかということは、非常に責任を感じました。小林委員が言ったとおり、教育というものは規模とかそういう事だけではなくて、教師の資質とか指導能力とか関係してくるということ。そこが非常に厳しいところで、逆に先生方の立場からすると、ある程度の子ども達がいて、校務分掌も負担にならない大勢の先生がいることのメリットがある。例えば小規模校の運動会を見て一番感じるのは、先生方も子ども達も余裕なくギリギリでやっているわけですよ。そういう形が良いのかということも、どこかで考えてやらないと、子ども達が一番かわいそうな感じが私はします。

小林委員)

いろいろな面で子ども達のためという事だと思いますし、教員の能力ということになって、それが子ども達の教育ということになりますから、教員の能力が高い方だけを配置出来ないのも、というよりは飯山市の学校に先生方が、行きたいと思わせるような学校づくり、飯山市の教員環境というものがあれば、より優秀でよりやる気のある先生方も、

自分で手を挙げて希望されると思います。そこはもちろん人事というものがありますが、いろいろな面で情報発信というのにも必要なかなと感じています。

長瀬教育長)

ただ非常にシビアな話をすると、近年飯水を希望している先生が少なく、みんな雪の降らない普通タイヤで通勤出来る学校を希望しているのが現実です。だから良い環境で良い教育をして、優秀な生徒を出せるのならば飯山市でやってみたいという先生もいると思います。

松木委員)

私も昨年度の課題検討委員会の委員の一人として話した時に、いったいどういう学校を作るのかというのが、魅力ある学校が見えてないとだめかなと。やっぱりそれに向かって地域住民の人達とお話をしていくことは大事にしていきたいなと思います。

3 ページのところにも、統合学校の目指す姿がありますが、今のお話をお聞きしていて、教育環境には物的環境と人的環境と両方あって、教員の資質という問題と施設設備という問題と二つに分かれると思うんです。両面から考えた時に施設設備については、これからの時代にマッチしたような物を造ってやっていく事がまず大事なことで、こういう学校なら子ども達を通わせたいなというのを造らなければいけない。人的環境では教員の資質ということですが、先生達が本気になってやってくれるには、どうしたらいいのかということも考える必要があるかなと思います。先程教育長先生が飯山になかなか教員が来ないと言われましたが、今までは初任や二期目で若い先生達が来るんですけど、そういう先生達を育ててやる、充実した研修というのが非常に大事です。私は飯山小学校で何年かお世話になった時に、かなりたくさんの若い先生を送り出して、中には今後幹部候補になる優れた先生がいると思っています。先生にとってもプラスになるだろうし、子どもにとってはより良い教育が受けられるということにつながる。

学力向上については近隣のもっと小規模の学校の学力低下が著しいです。ズドンと落ちてきているんですよ。それが何故かと先生方と話した時に、集団の中に学習に良いモデルの子どもがいないということです。小集団だとどういう考えを持てばいいのか、子ども同士の中でわかりにくいという部分があります。大きな集団だといろいろな考えがあって、あれも良いなこれも良いな、でもこれはいけないとか自分の中で消化しながらやっていくので、自分自身の考えを見抜いていけるし、そういう意味ではある程度の規模は必要だと思います。

また、子どもにとっての学力向上を大事に考えたカリキュラムなどをしっかり作っていく必要があります。長野市で中学校を見る機会があって、中学校の校長先生と話してみると、今は学力検査の点数の問題だけでなく、子ども同士が自由に話し合いをしながら、考えを創り上げていく事によって、子ども達の思考や判断や表現の力を、伸ばしていくという実践が大事だということです。そうしたモデル的な学校では不登校もいないということです。そういう良いモデルがあるので、これから学びながらどのような教育をやっていったらいいのかと、考えていくのも大事かなと思います。そういう事も含めて目指す統合学校の姿を私達が描いて、機運を高めていく必要があると思います。

西條委員)

子どもが減ってきてどこかで統合という話があってから、地元の人達からしたら学校が

無くなるマイナスのイメージを持っている方もいらっしゃるので、統合が難しいと思うんですけど、やっぱり先生方がおっしゃったとおり、こういう良い面がある、こういう学校を目指してる、それならいいなと言ってもらえるように持っていく、その先いろいろな問題はあと思うんですけど、そういう事を具体的に少しずつ進めて行けたらいいと思います。

吉越職代)

私はずっと検討委員会に出席させていただいたのですが、みなさんの意見を聞いて一番今思っているのは、学校を是非市政の真ん中に置いていただいて、とりあえずの城北中学校区の統合ではなくて、五年後にまず小学校の統合で十年後も統合がある、十五年後に中学校の統合があるということで、五年先のゴールではなくて、十五年先のゴールに向かって五年目で何をするのか、十年目で何をするのかというのを考えて、是非やっていただきたいと思っています。

委員のみなさんの声を直に聞いているので、みなさんの中にはやっぱり基本にあるのは、飯山の将来を担う子ども達を育てるために、良い教育環境を創ってやりたいと、いろいろな立場から参加していただいている委員全員の共通した願いだったと思います。最後に委員長さんがすべての委員に発言を求めたのですが、そこで多かったのは、始めは、少規模の方が細かな手が入って良いじゃないかと思っていたが、会議の中で適正な規模というのが、子ども達にとって必要なものだとかよくわかった。だから統合に反対される人はひとりもいらっしゃらなかったですね。初めは少数が良いとおっしゃっていた方は3、4人いらっしゃいましたが、検討委員会を通してやっぱり統合に向かうべきだという意見に変わってきたとおっしゃっている方がとても多かったです。

資料を提示していただいたので、現状が良くわかって誰もがいずれは統合があるだろうと思っていたけれども、こんな近いうちに統合をしなくては行けないと、もう待った無しだとおっしゃっている方もいらっしゃいました。だから委員の方はこの数値といろいろ出たご意見等を聞いて、すごく危機感を持ってやっぱり子ども達の為には、統合は必要なんだというように、最後のところではみなさんの思いは一致されたと思います。これから地域の方に説明をしていく、そこを丁寧にやっていけばご理解をいただけるのではないかと思います。

もうひとつは PTA 会長さんの発言でしたが、統合したら今までは自分はまず野菜作りで学校に協力していたとか、統合したらそれを区切りに自分は辞めたいとおっしゃる方がいると。地域の方が自分達の地域にある学校を創って来たとの思いがあるので、これからの気持ちを大事にしていかなければと思います。PTA 会長さんも自分はこれで PTA 会長を退くけれども、これから地域の一員として学校を支える側に立っていきたいという発言がありました。

やはり地域のお年寄りの方とか、役職の方だけではなくて若い人も現役のお父さんもお母さんも、地域の学校を大事にしていきたい。でも最終的には子ども達にとって何が良いか、先程も市長さんがおっしゃいましたが、それは学校の魅力づくりだと思います。やはりその視点を常に頭に置きながら、進めていきたいなと思います。だから賛成の意見と反対の意見とたくさん出るとは思いますが、みなさん常に頭にあるのは、地域にとって良い学校づくり、子どもにとって良い環境づくりをしてやりたい、そういう願いはひとつなんだと強く感じました。

長瀬教育長)

もうひとつは今の立場として、飯山市は子どもの家庭環境の格差がかなりあると思う。学力格差の奥を探っていくと家庭の格差があって、どうもそれが飯山の場合かなり厳しい方の状況にある子どもが多いと思います。市の立場としては何とか格差を小さくするために、小学校・中学校の環境を良くして、とにかく学校に来て一生懸命やれば、格差の溝はある程度は埋めることが出来るんだという、そういう環境づくりをしたいなと思っています。それが基本的には例えばスキー教室を2回にしたり、ラフティングをやったり、そういうことでなんですと、いろいろな所で話をして、そうなのかと言って理解してくれる人がいます。ただ先生方の中にはなんでそんな面倒くさい事をやるんだと言う先生もいるわけです。でもそれはそうじゃないんだというように、先生方に話をして理解してもらっています。子ども達はいろいろな環境で育っていて、厳しい状況の子どもがかなりいるので、それが統合によって少しでも良い学校環境にして、良い教育を受けられるようにしてやりたいなと、一番の腹の底にはあります。

市長)

私の立場で言いますと、ひとつは小学校くらいからもっと国際的に通用するようなレベルの人達を育成していきたいですね。他の国はどんどんやっていますが、英語とか市として強化をしていくような人的な手当てには市費を投入するなど。今 ALT を配置していますが、校数が多いと、なかなか十分にカバーできない場合もあるわけですね。ALT とか ICT 教育とか、そういうものについて力を入れてやっていく時に、例えば4校あるとするとそれぞれの所に人間を配置するのは、非常に大変です。現実的にはそこまでできないので、どうしても掛け持ちしたりとか。統合するとそこへ人的資源を集中出来るので、環境がすごく良くなると思っています。

そういう面はまた教育委員会とは違ったサイドで、市のサイドとして考えていて、これからの時代に物怖じしないで外国の人達と付き合っているいろいろな新しいアイデアを出して、外国の小学生や中学生と通信し合うような事が出来たら、市としては非常に良いと思います。

これから計画を教育委員会として取りまとめていく中で、どんな物を盛り込んでいくかについても、どこか県外の先進地などを視察するのも良いと思います。小学校教育はそんなに差はないかもしれないが、これだったら絶対にお勧め出来るという教育環境の案を、教育委員会として固めて、また検討していくという事が大事だと思います。

2) 岳北地域の高校の将来像を考える協議会 意見・提案について

【資料2】

事務局から説明

市長)

これは前々から県の方で、各高校の区域の中で県教委が生徒数が減少してきた時の、再編の計画を作る訳ですが、地域ごとに作って検討してくれるのが望ましいということでした。県全体では将来的に 68%まで生徒数が減って、三分の二位になってしまうのでどうするのかと。飯山の高校は既に二回の再編統合をしています。他の地区はたくさん高校があるわけで、それをどのようにするのかというのを、各市町村に投げられても、そんなの私達が考えて答えは出せないよと言うのが現実なんですね。高校統合を担当している県が、しっかり考えるべきではないですかというようなスタンスが、結構多いですよ。ただ飯山地域の場合は既に2校しかない訳です。県教委にすべてお任せしますから良いよ

うにという訳にはならないということです。

いずれにしても見ていただいておりますが、現在2校で7学級、でこれが4から5学級になるわけで、極端に言うと下高井農林高校の全クラスが消滅する可能性がある訳です。県では再編の基準があって一定の生徒数が減った場合については、三つの選択肢がある。一つは廃校、二つ目は二校を統合してひとつの高校にする。三つ目は統合ではなく、どちらかを分校化することという事なのですが、統合と分校化の違いというのはいろいろあって、統合になると完全にひとつの高校を創って新しい校長先生ひとり置くんですが、分校化の場合は地域キャンパス化でそれぞれの学校に校長先生を置くなど、ちょっと違いがあります。

結局選択肢は三つしかないが、廃校は困りますので統合か、地域キャンパス化のどちらが良いのかウエイトを検討した結果、現実的に一校になって普通カリキュラムをやって更に農林業科をやるというのが、物理的に難しいという事もあったり、一番大切な事は、下高井農林高校のキャンパスを残して、農林業の実業を学ぶ施設を残すことであると。そういう方向から将来生徒数が減った場合には、地域キャンパス化という選択肢になるだろうと、協議会で方向を見出しました。

それと、まず農林高校の中身の充実をしっかりやらなきゃいけないということで、参考1で三年間の授業の後で、専攻科という科を設けて、実学的なものを学べるようにして欲しいと提案しました。今移住者でも農業をやってみたいという人もいて、社会人や大学を卒業した人で農業を経験したいという人も、学べるという今までにない枠ですが、こういう学校を是非創ってもらって、この地域の産業育成を図ってもらいたいというのを第一条件としました。どうしても将来的に生徒が減る場合は、地域キャンパス化という方向を考えましょうということで、県の教育長へ提案をしたわけです。

県教委では地域と高校が連携をして、必要な高校教育をやっていくという姿を求めていくという話もありまして、高校教育は高校だけで地域と関係無しという事ではなく、地域と連携しながら人材育成を図っていくということが、今後の高校としての構想づくりの基本的な考え方とのお話もありました。

県の第一次取りまとめ期限は今年の3月、そこでどうしてもまとまらなかった場合は、二次として来年の3月ということですが、我々からすると第一次の計画の中でしっかり位置付けをしてもらって、農林高校の設備の充実とか専攻科の創設を図ってもらいたいとお願いをしてきました。

もうひとつは、この岳北地域の高校の将来像を考える協議会という組織を作りましたが、答申したのでこの組織は解散しますが、引き続き高校教育について県教委へ、いろいろな意見や提案をしていくような組織を編成していきます。地域一体になって地域高校の育成を考え支えていくという視点で、これからも県教委へ伝えていきたいと思っております。

長瀬教育長)

高校改革は平成29年に、栄村・木島平・野沢温泉・飯山市の首長と私で、飯山高校と農林高校の校長さんに来ていただいて、学校の現状を聞く懇談会を行い、かなり早い時期から提案をして備えていましたから、そんなに慌てることなく準備に入れたと思います。

一番は農林高校をどうやって残すかというのが大前提でありましたので、農林高校の生徒の7割近くは飯山市の子どもが通学しているのも背景にありました。ある首長さんからは飯山高校を残して、総合高校にというご意見もありましたが、一応協議会としては一本化して、県の方へお願いしました。県はどのくらい本気になって、予算や人的配置をし

てくれるかが、今後のポイントになるわけです。

市長)

以上のようなことで、高校の再編についての意見書を提出したわけですが、委員さんから何かございますか。

特に無いようでしたら、本日の予定の2項目について、総合教育会議としては以上となりますが、よろしいですか。

長瀬教育長)

ありがとうございました。

4 そ の 他

5 閉 会